

第52回鏡花文学賞授賞式ボランティア活動 ～文学・文芸を通じて地域を考える～

団体名●山田プレゼミナール／代表者名●山田範子（女子短期大学部・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

鏡花文学賞は、日本の近代文芸に貢献した金沢市出身の文学者・泉鏡花の功績をたたえ制定された「泉鏡花文学賞」と、金沢市民の文芸活動の充実を図るため制定された「泉鏡花記念金沢市民文学賞」の2つの賞から成る。

文学・文芸を研究する山田プレゼミナールでは、泉鏡花の『高野聖』を読み、解釈を交流したり、文体について議論したりしている。そこで、第52回鏡花文学賞授賞式にボランティアスタッフとして参加し、地域と協力しながら学びを深めたいと考えた。

活動内容(活動回数1回、参加者2名)



2名の学生が他大学の学生と協力し、会場での受付業務や会場整理を行った。授賞式では、文学賞受賞者への賞状を授与する金沢市長の補佐を行った。

成果、結果の考察

ボランティアとして参加した学生の感想である。

< A さん >

プレゼミナールで「高野聖」の勉強をしてから、鏡花文学賞授賞式にボランティアとして参加しました。私は、正賞と副賞を受け取ったり、受賞者の誘導をしたりしました。受賞者および選考委員のサイン本を来場者に手渡す仕事も担当しました。サイン本を渡した時に「ありがとう」とたくさん言われて嬉しかったです。

初めてボランティアをして、とても緊張しましたが、金沢市文化政策課の職員の方が優しく教えて下さり、安心して出来ました。とても貴重な良い経験になりましたし、社会貢献もできたと思います。このような機会があれば、また参加したいと思います。

< B さん >

ボランティアとして参加してみて、金沢を代表する作家、泉鏡花の偉大な功績を改めて知ることができました。

選考委員の綿矢りささんが、泉鏡花文学賞を受賞された原田マハさんの「板上に咲く」という作品の評価したところをお話されました。作家の方がどのような視点で作品を読んでいるかわかりましたし、私も「板上に咲く」を読んでみたくなりました。また、綿矢さんの作品にも興味をもちました。

貴重な経験ができて、このボランティアに参加して良かったと思いました。



今後の課題、展望

伝統ある鏡花文学賞授賞式が盛大に開催され、多くの市民の方々が参加されたことから、泉鏡花が郷土の誇りであることがうかがえる。これからもプレゼミナールで鏡花の作品を扱い、地域を考え、地域と連携した活動を行っていきたい。